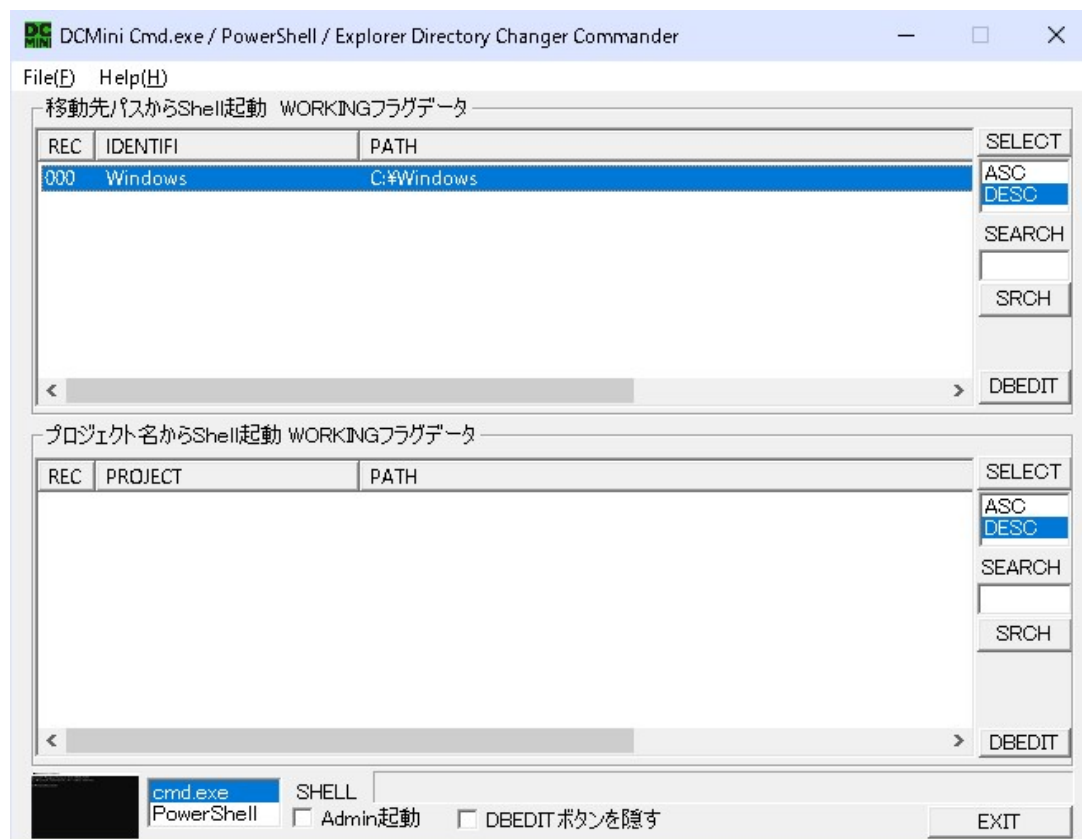


DCMini

CMD.exe/PowerShell/Explorer Commander for Windows

Version 1.0

操作説明書



QUIZ LAB LLC. 2025

2025/04/10

Document Version 1.0.2

目次

1.	DCMini について	1
1.1.	DCMini の歴史と概要	2
1.2.	シンプルな操作性	2
1.3.	対応 OS	2
1.4.	ライセンスフリー	2
1.5.	使いやすいインターフェイス	2
1.6.	ツールヒントなどの支援機能	2
1.7.	豊かなオプション	2
1.8.	その他の機能	3
2.	動作仕様	3
3.	著作権およびライセンス	3
4.	再配布について	3
5.	バグ Fix およびメンテナンスについて	3
6.	データの新規登録	3
6.1.	移動先パスに Windows フォルダを登録	4
7.	移動先/Project データの修正	7
7.1.	データの修正	7
8.1	データ表示の復活	10
9.	データの物理削除	11
10.	検索する	12
11.	その他フォーム等	13
12.	オプション設定	15
12.2.	DBQ オプション	18
13.	バージョン情報	18

1. DCMini について

1.1. DCMini の歴史と概要

DCMini は登録されたプロジェクト等の指定パス位置による CMD.exe / Power Shell / Explorer を起動するコマンド・ランチャーです。DC とは Dir Changer の省略名です。Mini というのは、社内用には Visual Studio C++プロジェクトのバージョン管理をバンドルしたフルバージョンがあり、それを簡素化したため Mini としました。ツールの出発点は**社内用の賄いごはん**のようなものですが、CMD.exe等を指定位置のパスで実行できるのはなかなか便利な機能なので、フリーウェアとしてリリースすることに致しました。例えば Rust,Go,Python などのプログラミング言語プロジェクトをビルドまたは実行確認する際にターゲットのプロジェクトパスで CMD/PowerShell/Explorer を瞬時起動することが可能になります。またエクセル等の業務シートの位置を登録しても有効に使えると考えられます。

1.2. シンプルな操作性

CMD.exe / Power Shell / Explorer を起動するためだけのツールなので、操作はじつにシンプル、簡単です。
v1.0.2.1 ではユーザが指定した exe ファイルを 4 種類登録する機能が追加されました。
4 種類の exe の起動方法は、SHIFT+左シングルクリック、CTRL+左シングルクリック、SHIFT+右シングルクリック、CTRL+右シングルクリックで登録した 4 種類の exe を呼び出す事が可能です。エディタやエクセル等、ユーザが必要なプログラムを登録してください。
パス登録保持の DB にバイナリ ISAM DB を x64 化した DBQ ファイルでスタンドアロンデータベース化されています。
内部で DB エンジンを持っているため、SQL Server 等のデータリンケージのためのセットアップ等も不要です。

1.3. 対応 OS

Windows 10, Windows 11 に対応しております。Visual C++ x64 Win64 API にて開発されております。結果オーバーヘッドの少ない快適な起動を実現しています。利用メモリも少なく、起動時で 2M バイト程度です。プロセス関連を起動して 12M バイト程度の利用量となります。

1.4. ライセンスフリー

ライセンスフリーです。企業の営利目的の開発でもフリーでご利用可能です。DCMini を使い、プログラミング環境、プロジェクト管理、対象プロジェクトの位置でのコンパイラ起動など、役に立ててください。

1.5. 使いやすいインターフェイス

DCMini ではパス/Project データを ListView スタイルで表示しています。これにより、見やすく、スクロール可能な使いやすい UI を実現しております。

1.6. ツールヒントなどの支援機能

各イベント発生ボタンや、入力コンポーネントに対し、可能な限りツールヒント文字列を表示するようにしています。そのつどマニュアル等を参照することなく直感的に操作する事が可能です。

1.7. 豊かなオプション

メイン画面上でマウスの右クリックをすると、プロパティ形式による「オプション設定」ダイアログが表示されます。また、確認無しで終了や、ツールヒントの表示停止、US English モードでの運用等オプション機能を最低限サポートしております。

1.8. その他の機能

新規 DBQ ファイルを作成する機能。データ破損、データ再作成時に利用してください。

2. 動作仕様

No.	仕様	説明
1	メモリ要件	最低 10M バイト
2	対応 OS	Windows10 Pro, Windows11 Pro
3	インターフェイス仕様	ダイアログベースアプリケーション
4	実行ファイル名	DCMini.exe
5	ビルドスタイル	Windows x64 SDK スタイルビルド 共有 MFCxx.DLL 不要
6	ライセンス	フリーウェア
7	ISAM エンジン	QZDB QUIZ LAB 製バイナリ ISAM 形式

3. 著作権およびライセンス

著作権は QUIZ LAB 合同会社が所有します。個人、法人にかかわらず制限無しで利用可能です。ただし、本ソフトウェアを利用した結果のいかなる不具合、不利益が発生しても弊社は一切の保証および保障は行いません。利用判断はユーザーに委ねられます。

QUIZ LAB LLC. 2024-2025 All rights reserved.

4. 再配布について

再配布は禁止されております。新しいバージョン等が必要となった際のダウンロードは弊社サイトまたはベクターサイトから行って下さい。

5. バグ Fix およびメンテナンスについて

バグの報告があった場合、前向きに対応していく予定です。メンテナンスも 2 年単位で行い、継続のアナウンスもそのタイミングで行う予定です。使い勝手のご意見など頂ければありがたいです。

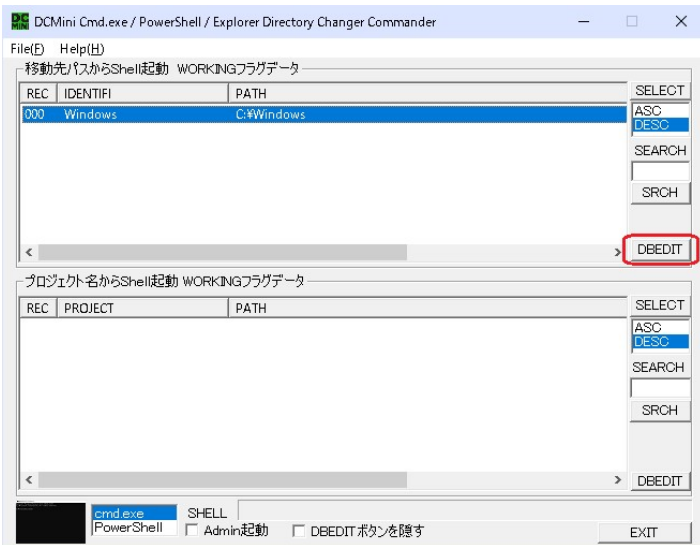
6. データの新規登録

DCMini を利用するには CMD.exe PowerShell Explorer を起動したいパスの登録が必要です。

メイン画面に 2 つの ListView があり、上が移動先パス、下がプロジェクト用になっています。

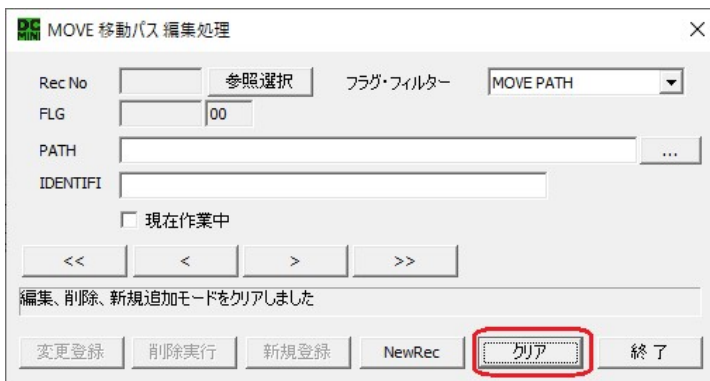
上もプロジェクト用に利用しても問題ありません。整理分類のために 2 分割にしています。

例えばテンポラリ的なパスは上に登録し、クリティカルな現在開発中の Rust パスとかは下に登録するなど、利用されるユーザ様が自由に工夫して配置してください。



6.1. 移動先パスに Windows フォルダを登録

まず、赤で囲まれた DBEDIT ボタンを押して「DB レコード操作ダイアログ」を起動します。

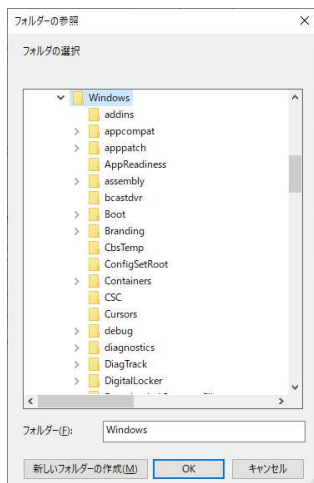


次に「クリア」を押して入力バッファをクリアします



次に「NewRec」を押して空いているレコード番号を自動採番します。確定後 PATH と IDENTIFI 項目を入力します

次に PATH テキストボックス横にある「…」を押して CMD.exe 等を起動したいフォルダを選択します



ここでは C:\Windows を選択して「OK」します

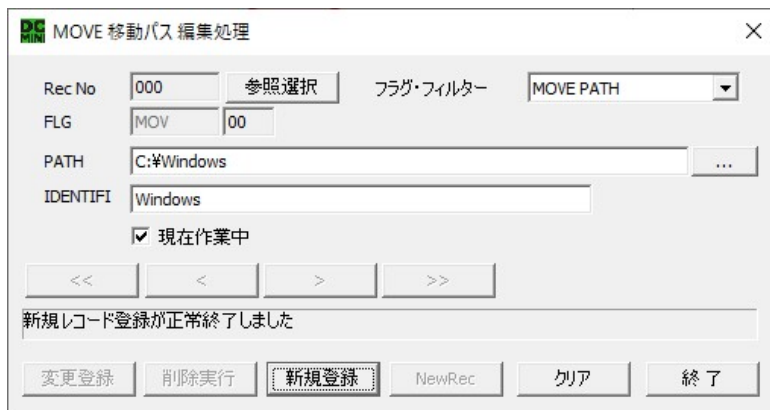
次に PATH に C:\Windows と入り、IDENTIFI に Windows とパスの最後の要素を自動で切り出してセットされます。

あとは**現在作業中**を必ず**チェックしてください**、ここをチェックしないと起動時のメインダイアログに表示されません。

逆に言うと、作業していて、このデータがとりあえず不要ならばチェックを外せば表示されません。データの削除はされません。

現在作業中はメインダイアログに表示させるフラグになっています。IDENTIFI 文字列は識別用の自由文字列ですので、必要ならば適宜変更してください。

最後に「新規登録」ボタンを押せば入力終了です。



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows

IDENTIFI: Windows

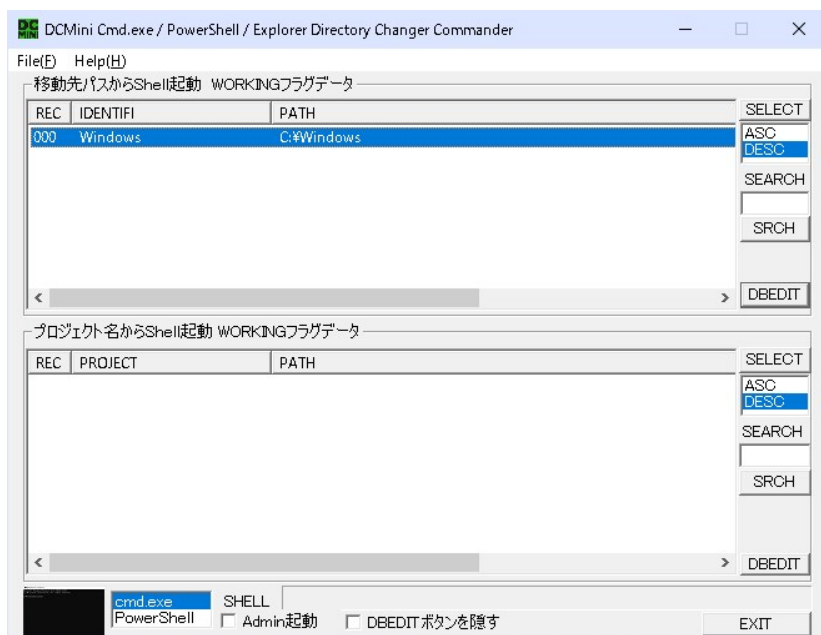
☒ 現在作業中

<< < > >>

新規レコード登録が正常終了しました

変更登録 削除実行 **新規登録** NewRec クリア 終了

メッセージエリアに「新規レコード登録が正常終了しました」と出ています
 マスタメンテダイアログを「終了」します。



DCMini Cmd.exe / PowerShell / Explorer Directory Changer Commander

File(F) Help(H)

移動先パスからShell起動 WORKINGフラグデータ

REC	IDENTIFI	PATH	SELECT
000	Windows	C:\Windows	ASC DESC

SEARCH SRCH DBEDIT

プロジェクト名からShell起動 WORKINGフラグデータ

REC	PROJECT	PATH	SELECT
-----	---------	------	--------

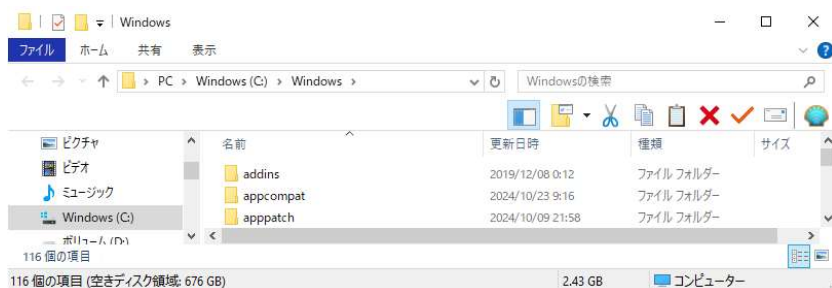
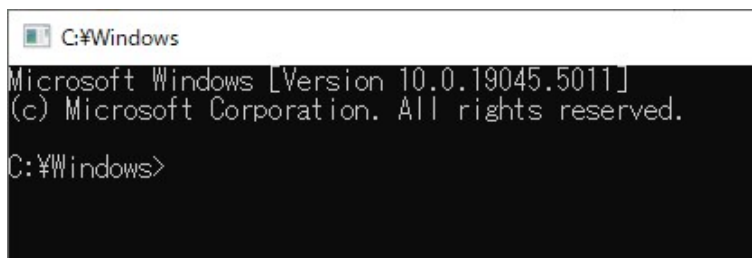
SEARCH SRCH DBEDIT

cmd.exe SHELL
PowerShell ☐ Admin起動 ☐ DBEDIT ボタンを随す

EXIT

移動先行に 1 行 IDENTIFI Windows PATH C:\Windows で登録されています

青く反転表示された行をマウス左ボタンでダブルクリックすると CMD.exe/PowerShell(管理者モードオプション)が C:\Windows 位置で起動されます。 マウス右ボタンでダブルクリックすると Explorer が C:\Windows 位置で起動されます。



7. 移動先/Projectデータの修正

7.1. データの修正

MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows ...

IDENTIFI: Windows

☒ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

修正したい移動先または Project の DBEDIT ボタンを押します

ここでは、先ほど登録した C:\Windows を修正します

フォルダ選択ダイアログから C:\Windows\System32\drivers\etc を選び[OK]します。

MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc ...

IDENTIFI: etc

☒ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

内容を確認して「変更登録」を押します。

MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc ...

IDENTIFI: etc

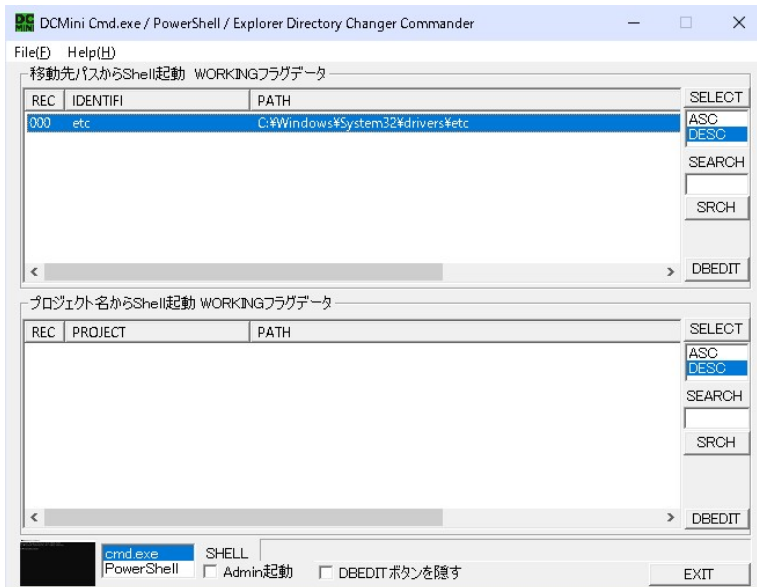
☒ 現在作業中

<< < > >>

変更処理が正常終了しました

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

変更処理が正常終了しました を確認後「終了」ボタンを押してメンテダイアログを閉じます。



C:\Windows\System32\drivers\etc にデータが変更されています。

例えば、このフォルダにある hosts ファイルを編集したい場合は「管理者権限」が必須になりますので、



Admin 起動のチェックを入れてから 反転行をマウス左でダブルクリックすると管理者モードで CMD.exe が起動します

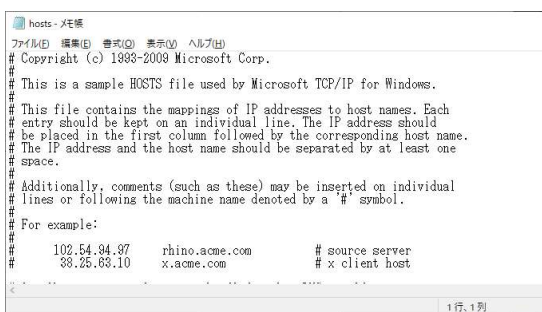
C: 選択管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe



C: 管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe



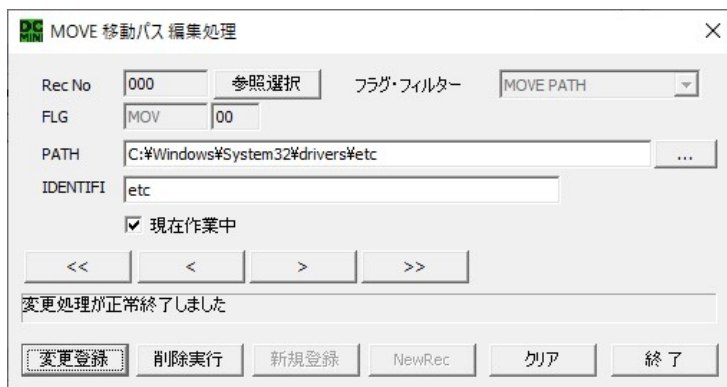
メモ帳で hosts を指定して[ENTER]



あとは編集してセーブしてください。不要になった CMD.exe 等は適宜終了してください。

※ 補足 管理者モードの場合で PowerShell を起動した際には CTRL+V で移動先のパスを貼り付けてください

8. 利用データの非表示化



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc

IDENTIFI: etc

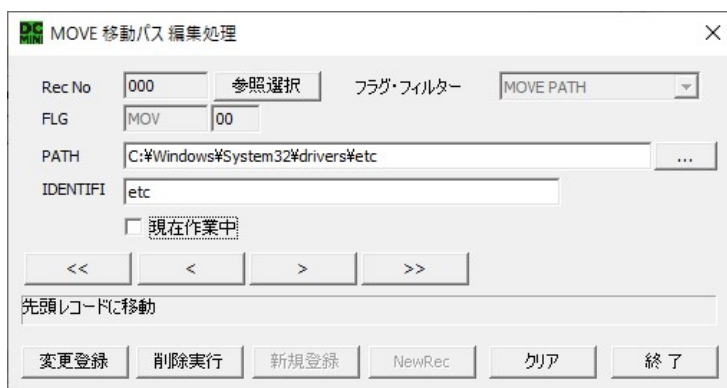
☒ 現在作業中

<< < > >>

変更処理が正常終了しました

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

メインの ListView から非表示にしたいデータを修正します。DBEDIT ボタンを押します。



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc

IDENTIFI: etc

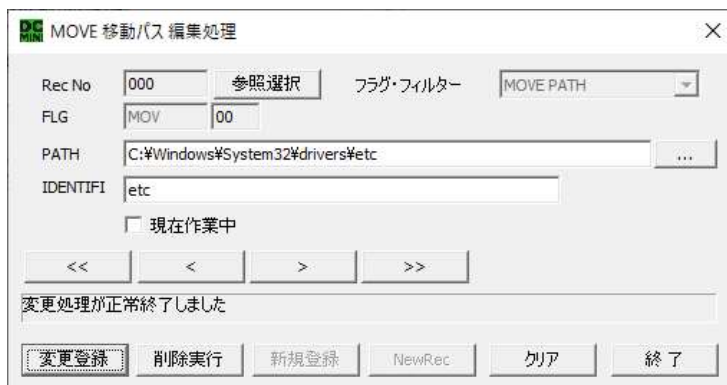
☐ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

現在作業中のチェックをはずして「変更登録」を押します



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc

IDENTIFI: etc

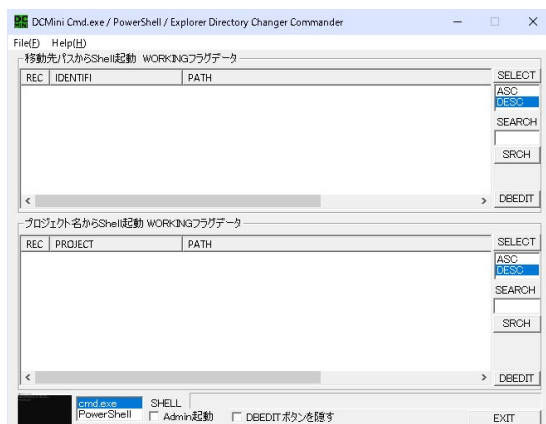
☐ 現在作業中

<< < > >>

変更処理が正常終了しました

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

正常終了を確認して「終了」ボタンを押します。



DCMini Cmd.exe / PowerShell / Explorer Directory Changer Commander

File(D) Help(H)

移動先パスからShell起動 WORKINGフラグデータ

REC	IDENTIFI	PATH
-----	----------	------

SELECT ASC DESC SEARCH SRCH DBEDIT

プロジェクト名からShell起動 WORKINGフラグデータ

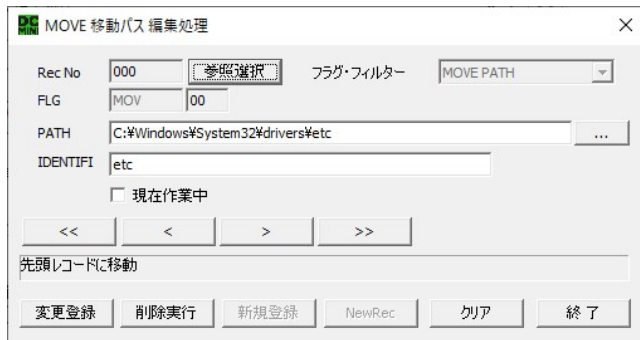
REC	PROJECT	PATH
-----	---------	------

SELECT ASC DESC SEARCH SRCH DBEDIT

cmd.exe PowerShell SHELL Admin起動 DBEDIT ボタンを隠す EXIT

表示行が無くなりました。

8.1 データ表示の復活



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc

IDENTIFI: etc

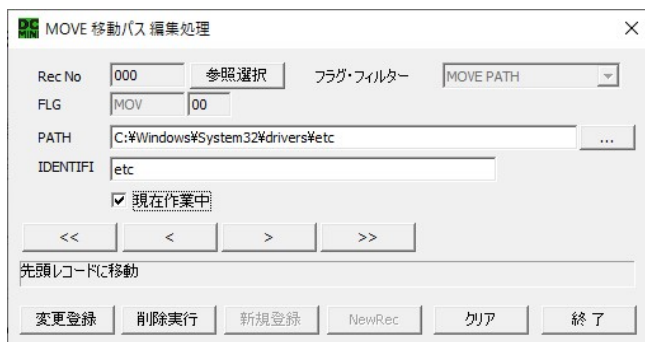
☐ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

復活したい移動/Project の「DBEDIT」ボタンを押します。



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: C:\Windows\System32\drivers\etc

IDENTIFI: etc

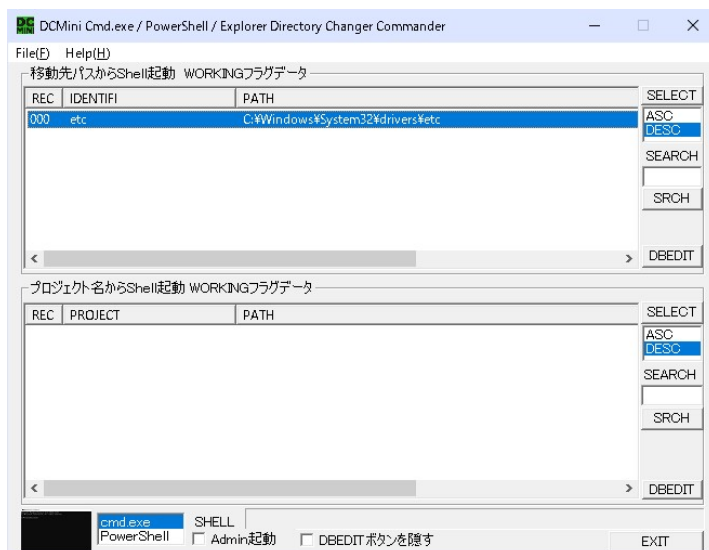
☒ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

現在作業中にチェックを入れ「変更登録」を押して終了します。



DCMini Cmd.exe / PowerShell / Explorer Directory Changer Commander

File(F) Help(H)

移動先パスからShell起動 WORKINGフラグデータ

REC	IDENTIFI	PATH	SELECT
000	etc	C:\Windows\System32\drivers\etc	ASC DESC SEARCH SRCH DBEDIT

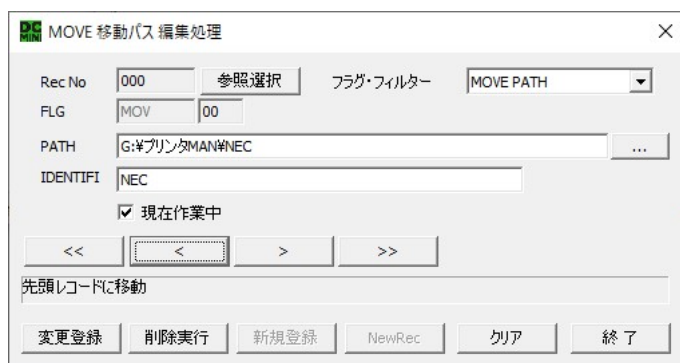
プロジェクト名からShell起動 WORKINGフラグデータ

REC	PROJECT	PATH	SELECT
-----	---------	------	--------

cmd.exe SHELL
PowerShell ☐ Admin起動 ☐ DBEDIT ボタンを隠す EXIT

PATH 行表示が復活します。

9. データの物理削除



MOVE 移動パス 編集処理

Rec No: 000 参照選択 フラグ・フィルター: MOVE PATH

FLG: MOV 00

PATH: G:\プリンタMAN\NEC

IDENTIFI: NEC

☒ 現在作業中

<< < > >>

先頭レコードに移動

変更登録 削除実行 新規登録 NewRec クリア 終了

削除したいデータ位置を表示します、データ移動には [<<] [<] [>] [>>] ボタンを利用します。

<< データの先頭レコードに移動

>> データの最終レコードに移動

> 現在表示の次のレコードに移動

< 現在表示の前のレコードに移動

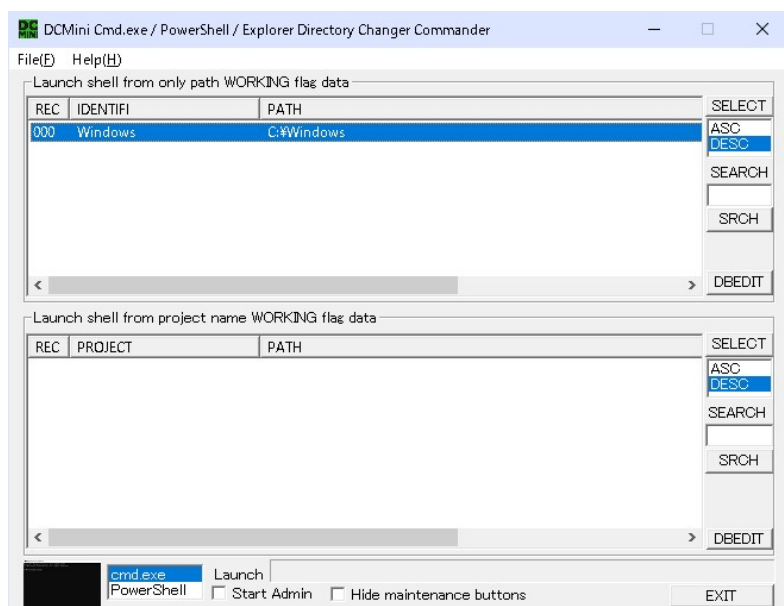
表示されているデータを削除します「削除実行」を押すと、DBQ ファイルから物理削除を実行します。

物理削除は「現在作業中」フラグの ON/OFF と違い、データそのものが存在しなくなりますのでご注意ください。

また、RecNo は、DBQ 全体で再生成され、削除位置によっては削除前と変動します。RecNo には表意性は無く、単に連番として利用している仕様となっております。

000-999 まで登録可能なのですが、実際 999 行を登録する必要は全く無いと思います。運用上は 50~せいぜい 100 行ぐらいが上限だと思います。人間が使いたいパスを使う、選択する、検索して探すなどの手間を考慮すると行は少ないほど扱いやすくなります。今開発中、または作業中のスクリプトを置いてあるパスを登録してその CMD.exe/PowerShell を起動する。みたいな使い方が一般的だと思います。

削除を実行したら、「終了」ボタンを押して終了します。



DCMini Cmd.exe / PowerShell / Explorer Directory Changer Commander

File(E) Help(H)

Launch shell from only path WORKING flag data

REC	IDENTIFI	PATH	SELECT
000	Windows	C:\Windows	ASC DESC

SEARCH
SRCH
DBEDIT

Launch shell from project name WORKING flag data

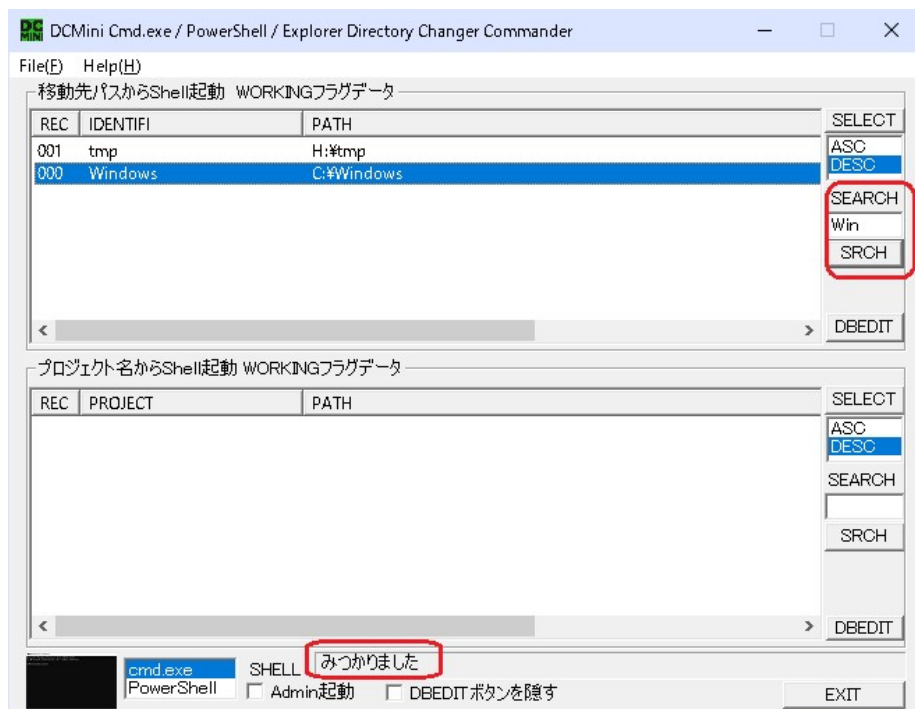
REC	PROJECT	PATH	SELECT
-----	---------	------	--------

SEARCH
SRCH
DBEDIT

cmd.exe Launch
PowerShell Start Admin Hide maintenance buttons EXIT

削除した行が表示されなくなりました。

10. 検索する



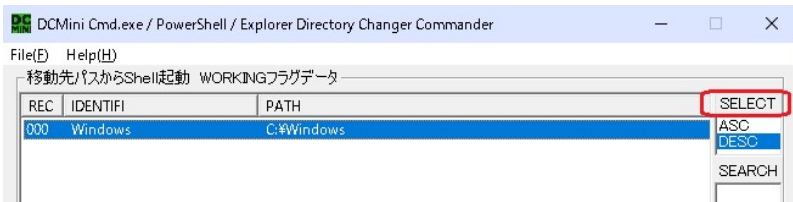
10.1. 検索したい ListView の SEARCH TextBox に検索文字列を入力します。部分一致対応です。

正規表現には対応していません。この例では Windows を探そうとして「Win」と検索文字列に入力しました。

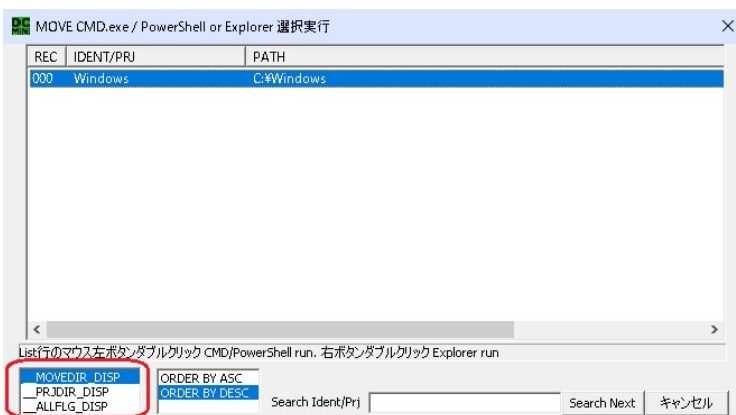
[SRCH]ボタンを押すと、次の行の検索を実行し続けます。見つかると、メッセージボックスエリアに「みつかりました」と表示されます。移動先は IDENTIFI 位置の文字列を検索します。PROJECT は PROJECT 位置の文字列を検索する仕様です。

11. その他フォーム等

11.1. SELECT ボタン



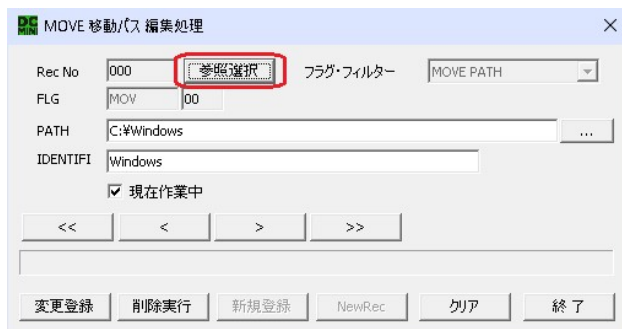
SELECT ボタンはメインフォームの上段の移動先パス ListView、下段の PROJECT ListView に表示されないデータを CMC, PowerShell, Explorer 起動が可能です。[SELECT]ボタンを押すと以下のダイアログフォームが起動します。



赤枠で囲んだ位置のリストの __ALLFLG_DISP を指定すると、WORKING フラグ 0 のメイン ListView には表示されないデータも表示する事が可能です。そのメイン ListView で表示されないデータを指定して左・右のダブルクリックで CMD、PowerShell、Explorer を起動することができます。

11.2. DBEDIT 編集処理

DBEDIT ボタンを押して DB の編集ダイアログを表示します。赤枠の[参照選択] ボタンを押すと



[SELECT]ボタンをおした時と同じ形式のダイアログフォームが表示されます。DBEDIT から呼ばれたこのフォームは、CMD、PowerShell 等は実行しません。選択反転行をダブルクリックすると編集ダイアログにデータをセットします。

レコード選択複写処理

REC	IDENT/PRJ	PATH
000	Windows	C:\Windows

List行をマウス左ボタンダブルクリックでレコードを選択複写します

☐ MOVEDIR_DISP ☐ ORDER BY ASC
☐ PROJDIR_DISP ☐ ORDER BY DESC
☐ ALLFLG_DISP

Search Ident/Prj Search Next キャンセル

セットされました。

MOVE 移動パス 編集処理

Rec No 参照選択 フラグ・フィルター

FLG

PATH ...

IDENTIFI

☒ 現在作業中

< > >>

12. オプション設定

オプションプロパティダイアログを表示するには、メインダイアログフォームの ListView 以外のどこかにマウスを置いて右クリックするか、FILE(F) メニューから Option(O)を選択します。

オプション・パラメータは Windows レジストリには書き込みません。ゆえに、インストール/アンインストールがシンプルです。

DCMini のフォルダごとコピーまたは削除すれば良いからです。

どこに記憶されているかは、DCMini.exe が存在する場所のフォルダ dcdat 内に DCMini.ini という太古の昔に使われていた.ini ファイルに記憶されています。DCMini.ini のパラメータを直接編集しても同様の結果が得られます。

.ini ファイルのエンコードは UTF16 LE で保存してください。

v1.0.2.1 から user def 1~4 までのユーザが起動したい exe ファイルを登録して呼び出すことが可能です。

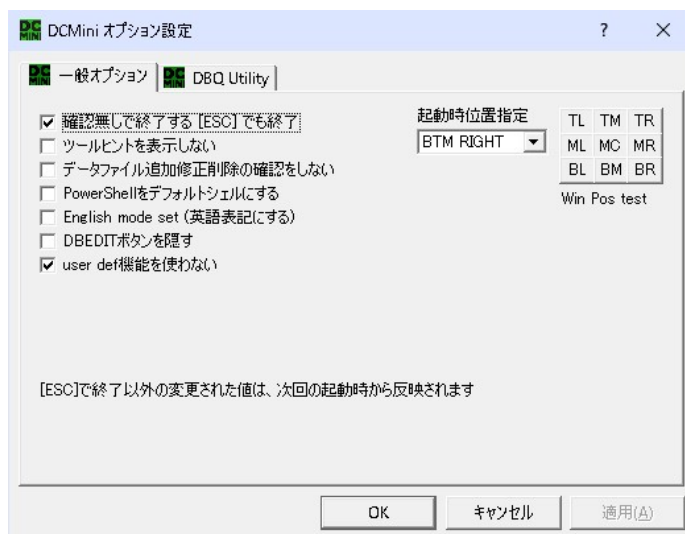
登録は [...] ボタンから起動したい exe ファイルを選択して確定するとテキストボックスにフルパス文字列がセットされます。

exe の定義を削除したい場合は 1~4 のテキストボックスの文字列を切り取ります。各テキストボックスが変更されると[適用]ボタンがアクティブになりますので[適用]を押してデータの変更を確定します。

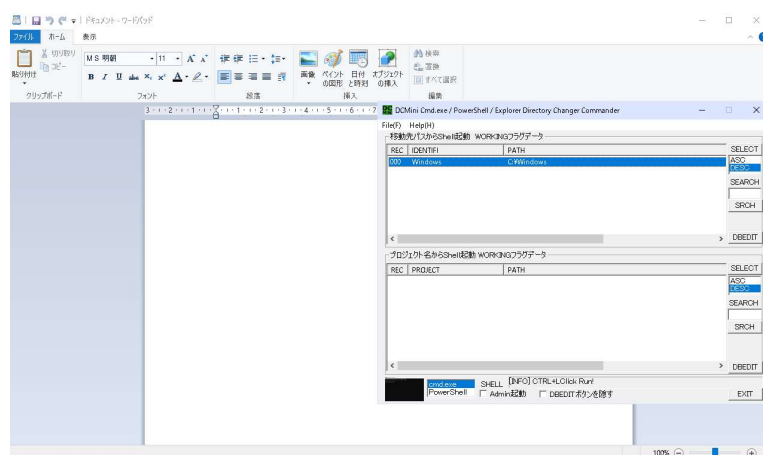
※ 本機能は、よく利用するアプリケーションをクイック起動するためのものです。DCMini はフォルダ単位での CMD,PowerShell 起動なので、ファイルまで指定してエディタ等は起動できません。また、ListView の行を指定しなくとも ListView 枠内であればこれらの user def コマンドを受け付けます。



本機能が必要無ければ、 [x]user def 機能を使わない。にチェックをすれば、関連するコントロールが表示されなくなります。



デフォルトセットされている CTRL+左シングルクリックで write.exe を起動したところ。

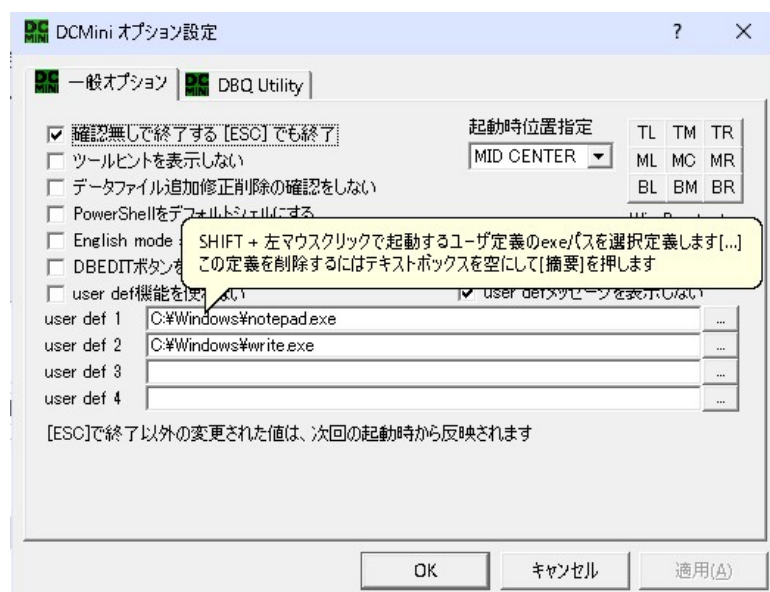


v1.0.2.1 DCMini.ini の内容。

UserDef3, UserDef4 はなにもセットされず空の状態です。実際の物理ファイルが正しいパスで登録されないとエラーになります。



user def 1 の定義パスを削除するには、テキストボックスを空にしてから[適用]を押します。



12.1. その他一般オプションの設定

確認無しで終了する[ESC]でも終了	チェックすると閉じる際に終了確認チェックが入りません
ツールヒントを表示しない	チェックするとツールヒントの表示を停止します
データファイルの削除確認をしない	チェックすると.DBQ 物理削除時の確認ダイアログを表示しません
PowerShell をデフォルトシェルにする	CMD.exe でなく PowerShell をつねに優先起動します
English mode set	メッセージ、コントロール等を英語表記にします
DBEDIT ボタンを隠す	.DBQ マスタメンテボタンを非表示にします
起動位置指定	起動時の位置を画面 9 分割のうちのいずれかに設定します

※オプションを修正したら DCMINI.exe を終了して再起動を促すダイアログが表示されます。[OK]を押して DCMINI.exe を一度終了し、再度起動すると変更されたオプションが反映されます。

12.2. DBQ オプション



- 新規 DBQ 作成パス 空の MINIOLOG.DBQ ファイルを新規作成します。その作成位置を指定します。
現在稼働している MINIOLOG.DBQ 位置を指定できません。作成場所に同ファイルが存在した場合には作成しません。テンポラリな場所を指定してください。
- DBQ 新規作成 [Create DBQ] ボタン 指定されたパスに MNIOLOG.DBQ 新規作成を実行します。

13. バージョン情報

バージョン番号を表示します

